



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 坂野慎治
 題字 島崎洋路

『葉っぱを見つめて』
 通年コース第一回開催報告 「樹木分類」

五月も中旬というのに朝はまだ肌寒く感じた通年コース初日。まずは樹の名前を知りまじょうと樹木分類です。種名は、誰かに聞くのが早いかもしれませんが、「近く



対生か？互生か？

の詳しい人」もどこにいろかわかりません。そこで検索。樹木の葉は、一見どれも同じように見えがちですが、少し目を凝らせば様々な個性が見えてきます。葉のふちのギザギザ(鋸歯)の有無、葉の形やつき方、葉の表面のすじ(葉脈)の入り方、葉の柄の部分(葉柄)の特徴などなど。かなりマニアックに感じられませんが、キーワードの知識さえ身に付ければある程度の識別は可能です。それでも、互生や対生、鋸歯や全縁、単葉・複葉・分裂葉、羽状脈や掌状脈・・・といった専門用語に



朴の木

翻弄され、葉での検索はうまくいかなかったという方は、花や実、冬芽でも種名を調べることができるので、挑戦してみてください。また今回の検索や散策で、この形の葉は好きだとか、この手触りの葉が気に入ったとか、実がおもしろいと聞いたので覚えたいとか、そういう動機から樹木を身近に感じることも大切かと思えます。

階級の用語が一般によく使われます。例えばダンコウバイは、「クスノキ科ウロモジ属ダンコウバイ」となります。「科」や「属」という単位でみると、同じ科や属の樹木の共通した特徴をつかめるようになるので、種を覚えるのにもとても有効だと思います。

ところで、生物の分類上の用語として、「界・門・綱・目・科・属・種」という階級があります。樹木の場合は下位三木は葉が対生する」とか、「ブナ科コナラ属の木はドングリをつける」といった特徴があったりします。今回覚えた樹木も、種名から科や属を調べてみて、同じ仲間にはどんな木があるか探してみるのも、いろいろ樹木を知る近道かもしれません。

二つの班に分かれて、サンブル樹木の和名検索を行う。つる性かどうか、単葉か複葉か、分裂葉かどうか、葉のつき方は対生か互生か、葉の縁はギザギザしているか波打っているか全縁か・・・といったキーワードを目安に検索していく。アケビ・ウリハダカエデ・コアジサイ・コシアブラ・コナラ・クロモジ・ソヨゴ・ダンコウバイ。



検索のキーワード・・・

通年コース 第一回
 5月17日(土)
 樹木分類

8時35分 講師挨拶。オリエンテーション。
 9時20分 休憩後、早川講師による分類学と樹木検索方法の講義。

12時 小屋で昼食。
 13時10分 分乗して鳩吹山へ。



『 体で覚えること 』

13時30分
樹木散策開始。駐車場脇のミヤマザクラに始まり、マメザクラやオオカメノキ、ヤハズハンノキ・パッコヤナギなどの樹木を観察。枝を折って香りを確かめたり、葉を噛んで味見したり…。

15時30分
散策を終了し、小屋へ戻る。

16時10分
講師総括。諸連絡をして終了、解散。お疲れ様でした。

参加者 / 奥村さん、北沢さん、北原さん、小林さん、白鳥さん、千田さん、高玉さん、鷹野さん、土屋さん、平床さん、舟山さん、北條さん、熊木さん、園田さん
講師 / 早川講師
スタッフ / 平林、坂野

専門コース第一回開催報告

初日から雨。しかも寒い。山小屋ではストーブに火を入れた三日間となりましたが…。

久しぶりの伐倒では、基本の姿勢を思い出しながら、体の重心や立ち位置、肩幅程度のアドレスを確認する。チェーンソーのスポットルーパーに手を添え、水平を確保する。つるを充分意識して正しい口を伐る。そうした一つ一つの動作を復習しながら、選

定した方向へと木を倒してゆく。そして根元から梢に向かって、幹の左側を進み、左側面へ上面へ右側面へ再び上面へ左側面へ返っていく枝払い。玉切りは山側から下刃で奥へ上を伐り、上刃で下から伐り落とす。

安全で確実な伐木造材を目指して、反復作業を積み重ねていきましょう。



基本の姿勢を思い出して

専門コース第二回開催 4月24日(木) 〜26日(土)

8時30分
島崎先生の山小屋に集合

8時45分
天気予報は終日雨。で、やっぱり雨。ということ

10時15分
出来たばかりの縄を使って木登り練習



左側を梢に向かって

10時50分
今度は直径巻尺を作る。測量などに使う巻尺を1m程度切って、片方の端にリングをつけたら、円周率の奇数倍の長さを測って線を入れる。線と線の間を偶数字を記入したら出来上がり。

11時30分
早めの昼食。

13時10分
午後はワイヤーのアイ加工。はじめにワイヤーの構造や種類について早川講師から説明を受けて、巻き差し加工に挑戦。

16時10分
作業を終了し、解散。

12時
小屋へ戻り、昼食。

13時
ソーチェーンの目立てをしてから伐倒再開。比較的平らな林分なので、平均的な枝張りや幹の傾きの少ない木が多く、矢を使った伐倒に取り組む。

16時
作業終了し、小屋へ。

16時40分
チェーンソーのメンテナンスをした後、講師講評、解散。

8時30分
曇天の空からは、時折雨が。

8時45分
横山の現場へ移動して伐倒開始。混んでいるので初日に作ったばかりの縄を牽引用具として使って伐倒

12時15分
小屋へ戻り、昼食。

13時30分

現場を昨日の所に戻し、伐倒再開。矢とロープを随時選択しながら伐倒を繰り返す。

16時

作業を終了。小屋へ戻り、講師講評。解散。お疲れ様でした。

参加者/東村さん
講師/早川講師
スタッフ/坂野

次回以降の予定

第二・三回

6月20・21日(金・土)

植林・下草刈り、
伐木造材

一日目は、午前中に小屋近くのますみヶ丘の一角で植林、午後は現場を西春近に移して下草刈りです。夕方16時30分頃には、山小屋でミスホ鋼機さんにナタ・ノコなどの山道具見本市を開催して頂く予定です。

二日目は、チェーンソーを使った木の伐り方。始動方法や丸太の輪切り練習、玉切り練習。受け口・つる・追い口といった木の伐倒に関することを行う予定です。

一日間ともに作業の出来る支度と雨具や防寒着・タオルなどご用意願います。ヘル

メットやトンガ・鎌などの作業用具は、こちらで用意しますのでご心配なく。8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

専門コース 第二回開催

7月3～5日(木・土)

前回の基本の復習とよりステップアップした方法での伐倒に挑戦してみましよう。また、傾斜地での安全確実な造材や枝払いの習熟も平行して。ご希望があれば牽引伐倒やひっぱりだこ集材も可能です。

三日間ともに、8時30分、島崎先生の山小屋集合です。


リレー通信
 自分の山は
 自分の手で守りたい
 北沢 孝男

私と山林との関わりと言えば、私が小さい頃から始まっていたのかもしれない。生まれた所は、天竜川右岸の一段低い下平という所です。幼少の頃は、学校(季節保育園)から帰ってくるなりカバンを



あと、地元に戻って測量会社に勤めました。山の中の測量もあって木にふれあう事も結構ありました。

二十九才の時に結婚をして、駒ヶ根市街より東へ一つ山を越えた戸倉山(別名：伊那富士)のふもとで自然豊かな中山地区に入りました。人情味があるすばらしい所です。当時は三十五戸の家があり、山林もきれいに整備され、木の利用価値がありました。伐採された木材は架線搬出され、各戸の家でも焼き物を切つては風呂を焼き、煙突からは煙が立ち昇る良き時代でした。私も春には山の奥のほうへ行って、タラの芽やワラビをたくさん採ったりしていました。それだけ山はきれいに整備されている証拠でした。それから時がたつにつれ地元から出て行く人が増え、山は荒れ始め、風倒木があちらこちらに見られるようになってきました。また若者(四十代はいない)が会社勤めのため、山に入って手入れをするものが少なく、年寄りが山林を守っていくことは非常に難しくなってきました。それでも楽しみに山に入って、お風呂の焼き物やシイタケのホダ木切りに励んでいる方もいます。ただ、昔みたいに煙突から煙が出ている家庭は少なくなってきました。現在二十七戸あるなかでも三分の一が灯油で沸かしている状態です。

高校は、上伊那農業高校の林学科(今は無い)に入りました。当時の林学科には演習林が二ヶ所あって、クラスでの実習が年に何回もあり、ノコギリを使つての間伐、ナタを使つての枝打ち、カマでの下草刈りなどいろいろとやっただと思えます。木の種類も勉強したと思えますが、難しい灌木などの名前ほとんど忘れしました。また、泊りでの実習はけっこう楽しいものでした。川のせせらぎの音、虫の声など遠い昔の思い出としてなつかしく思います。卒業後は、営林署に入って全国を廻る事が夢でしたが叶わず、名古屋の測量会社に七年勤めた

私の家では、母が去年の六月に亡くなり、親父は四年前に脳梗塞で倒れて左半身が動かなくなりベッド生活が続いています。親父とは今までに五回ほど山に行つて、親父がチェーンソーを使つて伐採し、私がノコギリとナタで枝を払つたり、また下草刈りをした程度しかありませんでした。十年程前になります。私が小学校四年の時に分校の卒業記念に記念植樹した、生きた化石といわれるメタセコイヤ(三十五年生位)が道路拡幅工事により切り倒されるというのを聞き、親父にこの話しをしたところ、"そんなに太い木はそうめつたにないで、せひゆずつてもらつてくれ"ということになりました。当時の同級生に頼んで、三本のうち私が二本譲つてもらい、四本に玉切つた丸太を製材所に運び、三寸板に挽きました。二年程自然乾燥したところで、親父が丁寧に磨いて脚をつけ、子供たちに配つたり家において今でも利用しています。私も残っている板を台にしようと奮闘しています。

親父が倒れてからは、代々

継がれてきた山を私の代で荒らすのは申し訳ないと思ひ始めています。私は五十才を過ぎた頃よりマラソンを始め、年四・五回各地の大会に出場してきたのですが、今年に入って坐骨神経痛に悩まされ、運動ができなくなりストレスと欲求不満が溜まり、ろくなことがありません。また、今まで勤めていた建設会社もこの不景気のおおりで、会社都合により三月二十五日をもって辞めました。定年まではまだ三年近くありますが、妻と相談した所、これからの人生どうなるかわからない、あと何十年いさられるかもわからないので、百姓をしながら何とかやっていけるからということになりました。



が倒れてからは、風呂の焚き物やホダ木の調達にはなんとかチェーンソーを使っています。が、刃の研ぎ方が悪く曲がって切れたり、思った方向に倒せなんだりして苦労しています。これで山に対して、木に対して、少しでも役に立つのかなと思っています。また今年の暮れには炭焼きに挑戦したいと思っています。

子供が自立した今、やりたいう事はまだまだたくさんありますが、基礎をしっかりと勉強して、一つ一つ自分のものにしていきたいと思いますので、よろしくご指導をお願いします。

リレー通信

樵さんに憧れています 千田 高弘

六年ほど前、岐阜県主催の山仕事の説明会に参加しました。機会があれば山での仕事に従事したいと思っていますので仕事の概要を知りたく名古屋市近郊の春日井市から出かけました。

説明会場は森林組合、林業



たからと思いません。小学生の頃ナイフを常備し木、竹を削って遊び道具を作ったり木登りをしていました。木の上で楽な体制を作りポーツと景色をながめて

いたことを覚えています。

関係会社の会社説明会で「ご希望の企業、団体の説明を受けてください」と言われ、各ブースに会社の人事担当者らしき方たちがこちらを見ているのに面食らったことがありました。いきなり面接状態です。

そのとき五十手前でも探っていただけの会社がありました。が、就職する地域、収入面で難しいことが判りました。近くの堤防などの草刈をうらやましく眺め、定年後の仕事と思っていました。説明会に参加し、こういったことを含めて林業の会社の仕事とわかりました。

その後は山仕事「樵さん」の仕事を感じる機会を探していましたが、昨秋インターネットサーフィンでKOA森林塾を知り今回応募いたしました。

山仕事に魅力を感じるのの子供の頃から野原で遊び、やがて山登りをするようになって

中学に入り担任の先生の影響で蝶採集にのめりこみました。蝶の生態を知るため食樹(蝶が幼虫時食す植物)を覚え、草、木、森、山に親しみました。八ヶ岳にも行きましたが、この頃は蝶を追い山道を駆け回り、山頂を目指した山ではありませんでした。

しかし蝶採集により山の魅力を知り、二十代までは近くの鈴鹿の山に時々登っていました。しばらく山から離れていましたが三十代の終わり頃登山をする職場の同僚から誘われ、南アルプスに行つてから山の魅力に再び目覚めました。

蝶を追っていた若い時には感じなかった森の温かさ、深さに包まれた高揚感とでも言うのでしょうか不思議な感覚を体験し、新たな森、山の魅力を知りました。

現在、木版画、木工を趣味

にしています。木と縁があるのだなあつくづく思っています。

樵さんをしながら田舎暮らしと言ふより森で暮らし、雨が降れば木版画、木工をする暮らしが出来たらと想っています。田淵義雄さんの本「森暮らしの家」を見て、私と近しい感じがしました。彼は作家でありながら木工をされ蝶にも思いを寄せるあたりが。

このような生活を今は希望で終わっていますが、まだまだ私にも可能性があるのでと今日も想いつつ、まずは樵さんをめざそうと。



樹のコラム

コアジサイ

初夏に咲くこの花は、私たちが一般に知っているあじさいとはほど遠いような花です。葉は質が薄くて、わりと大きめのぎざぎざな鋸歯の葉で、花は、とっても小さな花が集まって咲きます。花の色は白から、淡い紫や水色の花を咲かせます。花柄も、つす



い紫になります。葉は対生していて、両面に毛が散生しています。花の時期は六月から七月。枝の先に散房花序を出します。

この花が咲く頃に森へ入ると、ああ、こあじさいが咲いていると分かるほどの甘くて良い香りがありました。漂っています。おそろく、香りのするあじさい属は、このこあじさいと、ばいかうつぎだけではないかと思えます。葉の形も、花も特徴があるので、一度覚えてしまえばすぐに、ほかの樹種と区別出来ると思います。

しみに待っています。あじさいは、ゆきのした科で、こあじさいの他に、やまあじさい、えぞあじさい、がくあじさい、こがくあじさい、たまあじさい、のりうつぎ、がくうつぎ、あまちゃつぎ、あじさい、いわがらみ属のいわがらみ、ばいかうつぎ属のばいかうつぎ、うつぎ属のうつぎ、ひめうつぎなど、多くの種類があります。それだけに特徴があるので、みついたら、観察してみてください。

おわりに

今年も安全第一で、一年間よろしくお願致します。

「鷹」

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp